うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 49

攻撃のための出城
大坂冬の陣 不落の要塞

玉造駅から歩いてすぐに、大坂冬の陣で真田信繁（幸村）が大活躍した真田丸の史跡があります。

１６１４年（慶長19年）に方広寺鐘銘事件が起こります。大坂方は戦に向け、諸国から浪人を集め、その中に高野山から脱出した幸村もいました。

大坂城に入城した幸村は、近畿を平定し東西を分断すべきと積極的な出撃を主張しますが、大坂方は籠城策をとりました。そこで、幸村は南からの攻勢を想定し、平野口に独立した出城・真田丸を築き、自らが守備につくことにより徳川方の攻撃をくい止めようとしました。

真田丸は、半月形もしくは三日月形の東西に長い砦で、高さ９メートルの土塁の壁に、外周の壕は深さが６～８メートルもあったといわれています。大坂冬の陣では押し寄せる徳川軍をさんざんに打ちのめし退却を余儀なくさせた不落の要塞でした。

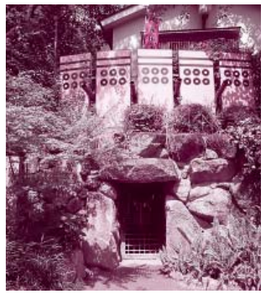
三光神社の境内に大坂城からの抜け穴とされる跡が残っています。「真田の抜け穴跡」と呼ばれ、幸村隊は各所にめぐらせた抜け穴を通って、神出鬼没のごとく現れ、徳川方を翻弄したといわれます。

和議が成立すると、真田丸は打ち壊され総堀の埋め立ての材料につかわれてしまいました。

翌１６１５年の大坂夏の陣で、徳川家康の天下統一が決定づけられました。

心眼寺にある真田幸村出丸城跡碑

明星高校グラウンド前にある
真田丸顕彰碑


三光神社にある真田の抜け穴

Culture Navi かるちゃーなび

大阪の青年大集合！

大阪自治労連青年部主催 ウェルカム パーティ

■日時　６月25日（土）17：45 受付開始　18：00 スタート

■参加費　各単組の組合役員におたずねください

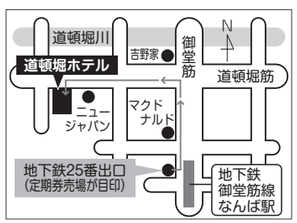
■会場　道頓堀ホテル　大阪市中央区道頓堀2-3-25
TEL　06-6213-9040
大阪市営地下鉄「難波（なんば）駅」25番出口から徒歩３分

自分の市だけなんて
もったいない！
今のうちに他市の仲間も
増やしてみませんか？

☆みんなで楽しみたいので
楽しむ心を忘れずに

☆豪華景品あります
ゲームで景品GET！

☆申込みは各単組の書記局まで



このシネマがえいが

©2015 Mythos Film Produktions GmbH & Co. KG Constantin Film Produktion GmbH Claussen & Wobke & Putz Filmproduktion GmbH

「帰ってきたヒトラー」

現代だからこそ、冷静な目で見てほしい

現代のドイツ・ベルリンに一人の男が横たわっていました。その男は１９４５年４月30日に自殺した、ドイツ第三帝国総統アドルフ・ヒトラー（オリヴァー・マスッチ）でした。当時の軍服で街を歩くヒトラーを誰もが「不謹慎なコスプレ男」だと気にもしませんでした。

テレビ局をリストラされた契約社員（ファビアン・ザヴァッキ）が、たまたまヒトラーを見つけ物まね芸人と思い込んで復帰の足がかりにしようと、政治に対する不満などをインタビューする企画を考え全国を回ります。ヒトラーは巧みな話術で社会への不満を引き出して、人々の心に染み込んでいきます。ベルリンに戻ったヒトラーがテレビに出演し、政府とマスコミを批判する演説をおこなうと、ブラックジョークと勘違いした視聴者の支持を得て、大ブームを巻き起こします。しかし、ヒトラーが71年前にできなかったことを現代で再びやり直そうとしているとは誰も思ってもみませんでした。

この映画で多くのドイツ国民と交流したヒトラー役のマスッチが「ヒトラーは女性の注意を引くらしい。何人かの女性にハグをされた。もちろん僕を激しく非難する女性もいたし、それは健全だと思った。（交流した人々との）会話から、彼らがいかにだまされやすいか、いかに歴史から学んでいないかがわかった」と言っているように、正気と狂気の一線を見失う現代の人々の危険性は今の日本にも存在します。麻生太郎副総理の「ナチスの手口に学べ」の発言を含め、恐ろしさを改めて感じる作品でした。

心に響くこのひとこと

戦（いくさ）は勝ち負けの問題ではない正義の問題だ

立花（たちばな） 宗茂（むねしげ）

立花宗茂は安土桃山時代から江戸時代初期の武将、大名です。関ヶ原の戦いで改易後、大名として旧領に復帰した唯一の武将です。宗茂はその才能を、豊臣秀吉や徳川家康からも高く評価されていました。また、戦上手だけではなく、常に温厚で誠実に人に接し、そして義理堅く正直な面など「武士の中の武士」とも呼ばれました。家臣に対しても同様で、平等に対応し武士団の団結が高まり、戦でもその力を発揮したようです。この言葉は、関ヶ原の戦いで家臣が反対する中でも、大義を重んじ西軍に馳せ参じた時の言葉です。

今月の記念日

「露天風呂の日」
６月26日

「露天風呂の日」は、６.26として「露天風呂」と読む語呂合わせから、岡山県真庭市の湯原温観光協会が1987年に制定しました。発祥の地である岡山県真庭市の温泉地・湯原では当日の早朝６時26分に「温泉薬師」と呼ばれる薬師堂から温泉を汲（く）み、岩場の露天風呂「砂場」へ運ぶ儀式など、温泉に対する感謝を示すイベントが行われています。また、旅館と温泉の内湯が無料開放され、６・26（ろくてんぶろ）にちなんだ特別料金になるなど、飲食店、土産物店も取り組んでいます。全国的にも岐阜の奥飛騨温泉郷露や大分の中津耶馬溪などでもイベントが取り組まれています。